

自分だけのストーリーとしてあらわれる。
人生を、いろいろが視点からみることができた。(4.由紀子)

(2)

私の人生とは……毎日が宝物である。

人を振り返ると、幸せで笑顔の日もあれば、悲しくて泣き続けた日もあった。悲しいことがあった日は、本当に立平くて勉強を成した時もあったが、その経験から成長できたし、強くなれた。だから、幸せな一日、普通の一日はもちろん、涙の一日も宝物である。まよって天気のようにだ。

晴れた日は、気分も晴れるし、洗濯物を干したり、綺麗にならぶが見える。晴天が好きなん人多いだろう。雨の日は、自然と気分も晴れず、お出かけもしたくなる。しかし、その雨は、恵みの雨として待っていた人もいれば、大切な水源となり、雨土が下には虹も見られることがある。全ての天気が必要で、必要のない天気なんてない。

一日一日を大切に

中学時代の却落の時、毎日の練習がとてまもなく、やめてしまいたい時もあった。しかし、勝った時の喜びは、とてまもなく大きく、日々の努力は無駄ではなかったと思った。その当時は辛いことなんてなければいいのと思っていたが、それがあつてこそ才能敵は一日もあつたので、一日一日が全て大切で、無駄なんてない。

人生楽しいことや辛いことはたくさんある。どちらかだけが続くことは無い。振り返って改めて思った。毎日を大切に生きたい。

(3)

(10.輪子)

私の人生とは、感情の塊である。

感情には喜怒哀楽がある。生きてきた時間と様々であり、時間の経過と共に変容していく。そして今、その感情

のすべてが溢れたものが、私の人生である。たとえつと、穴のようである。

朝、昼、夜の時間の経過で色が変わり、天気によって形も変わる。朝、昼は太陽があり、夜は月と星がある。他はまた、表しているように目に見える。

体験談。

この学校に入学できたこと。

不勉強で自分だけ怒ったこと。

祖父が亡くなった時のこと。

友達と一緒に一日中遊んだこと。

他にもいろいろありますが、このような感情の積み重ねが、私の人生を形成している。改めて、人生を振り返ってみると、毎日の練習がいろいろあったなあ、と思えます。そして、これから、どう生きようかと考えさせられます。(30.生)

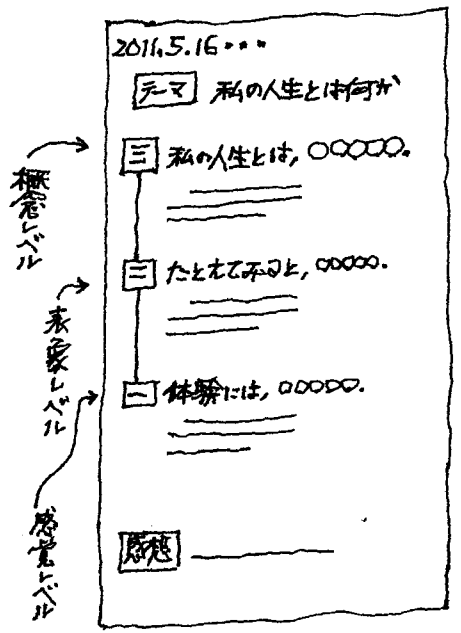
(4)

私の人生は、行き当たりばったりである。

ある程度の人生プランは出来てはいるが、あまり深く考えずに考えても二手先ぐりいまいごである。そもそも考えを行動するのはあんまり得意で、嫌いなもので、これでもいいのだ。結果はとたえつと、イメージブルのようだ。

ある程度先を予想は出来るが、確定ではない。でも、それがない。全ても予想通りに事が進んだり、つまらない運命な人生になる。失敗してもいい。完璧な人間なんかいないので、それを次につなげればよい。その経験が糧になら、考えなくて本能的に行動できるといい。過去があるから現在があるのこの後悔しなくても仕方がない。

体験。



タテ18.5cm・ヨコ8.8cm

とにかく、右の枠を立て、「私の人生とは何か」の三段階の論
 文づくりを導いたものがありました。しかし、その成果は、今
 見た夕子書百きの五例と、あとに掲げる全作を比較するとみ
 てものむかひがよい。この「枠を立て」以上の中身を「上」に
 しました。みなさんの実力が、いつのまにか、着実に進んで
 いくのだ。

② 「人生とは何か」ではなく「私の人生とは何か」
 あること

そはは、こうです。「人生とは何か」というテーマがあ
 り、どうしても、一般的に人生論になりがちです。
 だが、面白くありません。たれかの人生論になって
 しまします。

どうして他人事ではない人生論、いわゆる「自分の人
 生論」であってほしいか、と思いがゆえに、「私
 の」の二字字を入れて、わざわざ、「私の人生とは何か」

のテーマにしたのです。

そして、とくに、目の段階の、「私の人生とは、〇〇〇〇。」
 のところに、反映させてほしいと頼ったわけです。

ですから、この説明の文は、……であつたから」とい
 う過去形が望ましいことになりました。読む方から言います
 と、過去形になつては、いかうかが、目の上の切り言葉の
 自己削性があります。

その結果は、どうだつたでしょうか。
 欠席者までいいて、欠席中、二人に「私の（『自分の』）の反
 映を見ること」ができました。早速、成度からいいますと、半
 分の成果があつたわけです。

（他面から申しますと、みなさんは、一般的な文意づくりや、
 抽象的な論づくりが、たいへんうまう、それが身について
 いるという事です。特色としては、他人事的に言う言え方
 になり、慣水といふこと、があります。それは、それがど
 ういふことです。法目の能力です。それは、……、
 まごの心身の成長過程や、学習過程の中で、手に入
 りてきたのです。その強味、が、あります。しかし、
 ともすると、その強味は、反対の弱味に弱体化します。す
 なわち、空理空論になつたり、現実の問題の解決から逃
 れてしまつた、といふふうな事です。そこで、三段
 階連関理論を学んだのですから、この……、
 的が論づくりや文章づくりの能力も意識的に高ま
 り、進んでみてください。……、
 活体験が……、具象的なもの、証拠になるもの、
 言葉、……、息に金棒の道なのですから。)

③ 概念レベルでの言の切り文と言

相成りと言の切つていきます。
さらに概念を強化していきます。

- 掛け合ひである (2 西香)
- 私の人生とは、では、今、旅道 (3 舞)
- 哲学とある (4 由記子)
- 試行錯誤の連続 (5 貴史)
- 自分を知らぬ (6 不記子)
- 希望が (7 麻記)
- 目標を待って努力する (8 京子)
- 山あり谷あり (9 未美)
- 毎日が宝物 (10 裕子)
- 未知の世界 (11 裕香)
- 解き解のり (12 裕子)
- 結果良し方向 (13 友記子)
- 波瀾万丈 (14 真枝)
- 茶屋 (15 瑞穂)
- 冒険 (16 知咲)
- 大それたこと (17 佳苗)
- 凶悪道 (18 映理)
- 破壊と創造 (19 由子)
- 成長 (20 真枝)

- 生涯学習 (21 真枝)
- 経験の積み重ね (22 康太)
- 行き当たらなかった (23 雄二)
- 常に挑戦 (24 佑香)
- 感情の塊 (25 生)
- 学び (26 千加)
- 挑戦 (27 香奈)
- 好奇心をかきたてる (28 史)
- 学び (29 由記子)
- 一度やり (30 香登)
- 前進すること (31 彩)
- 自分探しの航海 (32 裕香)
- 学習の連続 (33 由美)
- 未知数 (34 裕香)
- 七転八起 (35 智子)
- 幸せ (36 智子)
- 自らへの準備期間 (37 裕香)

○ 印は、「人生とは何か」となく、「私の人生とは何か」にしたこと。このもの。すなわち、目的と手段。「私」が反映し、他者事にはつけないよう、すなわち、

④ 表象レベルでの言の切り文と言

「たとえ」が、うまくなくて、きました。
なんが、人生の本質へ接近と、いつか、な感い、です。

- たええと、マランソンのよう (2 由香)
- ゲームみたい (3 舞)
- 航海のよう (4 由記子)
- 曲がり角の連続のよう (5 貴史)
- 学校のよう (6 石記子)
- 光のよう (7 麻記)
- 山のよう (8 京子)
- 雲のよう (9 未美)
- 天気のよう (10 裕子)
- 宇宙のよう (11 裕香)
- デニムのよう (12 裕子)
- 山のよう (13 友記子)
- 広い広い海のよう (14 真枝)
- 空のよう (15 瑞穂)
- 道のよう (16 知咲)
- 試験のよう (17 佳苗)
- おやむとともある (18 映理)
- 赤血球のよう (19 由子)
- 天気のよう (20 真枝)
- 雲のよう (21 明奈)
- 読書のよう (22 由子)
- パズルのよう (23 佳也子)
- 試練 (24 智知)
- おみこじのよう (25 真枝)

- マランソンのよう (26 真枝)
- 一冊の小説のよう (27 康太)
- ギャンブルのよう (28 雄二)
- 壁である (29 佑香)
- 空のよう (30 生)
- 川のよう (31 千加)
- 冒険 (32 香奈)
- 河の流のよう (33 史)
- 料理のよう (34 由美)
- 山登りのよう (35 千重)
- 登山のよう (36 香登)
- 険しい山口のよう (37 彩)
- 登城という地獄 (38 裕香)
- 列車のよう (39 由美)
- 旅行のよう (40 拓也)
- 向きの出でる朝ドラのよう (41 裕香)
- 空気のよう (42 智子)
- 鳥の巣のよう (43 裕香)

「私の人生」の表象の、これは、春風万葉に、わたりて、います。人生のありようは、春風万葉が、暗不して、日の、です。

⑤ 「私の人生とは何か」のしごとがもたらすもの — 「感想」の中の拾い取り

- 自分の人生について深く考えたことなんてなかったし、言葉が表現することもなかったの。で、良い機会だった。(2由香)
- 人生というテーマは大きい。この小さい紙にまとめるのは難しかった。ただし、小さくまとめたからこそ、自分にとって、何が大切かが分かった気がする。(7麻衣)
- 「人生」という言葉は、意味深という言葉だと思えました。今まで一度も「人生とは何か」を真剣に考えたことはなかったです。

⑥ 私たちの作品

- 人生って自分が思う以上に哲学的な要素を含んでいて感じた。(17佳苗)
- 自分より生き方のふせが少しわかったような気がする。(19由子)
- 普通の人の予課題が多すぎたと思える。もう少し洗練のな生活がしたかった。(4智子)
- 改めて、普通が一番幸せだと、実感した。(2智子)
- あまり書くことないだろうと思っていたけれど、たくさんあって驚いた。(15瑞穂)

……ここをもつて、「一生探検論」は終了です。みなさんの前途の道を祈るばかりです。
△左司和晃

2011.5.16 社保看

①-2 私の人生とは何か

③ 自かげ合いである
人生、自分のかたげで生きていくのは難しい。支えてくれる周囲があるからこそ、頑張れる。互いのかたげが合わされば、大きなかたげにもなると思う。

③ マラソンのようだ
マラソンにはゴールがある。途中、辛くなったり投げ出したくなったりするかもしれない。その時は、休憩をしてもう一度進めばいい。人生もそれと同じように、どんなに挫折しても何度も立ち上がればいい。どちらも自分と比べるのではなく、自分のペースでいいのだ。

③ 仲間には大きな存在である
私は、9年間バスケットをしてきた。しかし高2の時から、復帰は難しいと言われて、初めて挫折した。しかし、そんな時支えてくれたのは仲間である。きっと私の力では、止まることはできなかったろう。そして、成長も何一つ得られなかったと思う。仲間の支えと自分の力が合わさると大きなかたげになるのだと思う。

感想 自分の人生について深く考えたことなんてなかったし、言葉が表現することもなかったのが良い機会だった。

2011.5.16 社保看

①-2 私の人生とは何か

③ 私の人生は、でこぼこな坂道。
たくさんつまずいて前に進んでいけるから。すぐがうまく行って今があるわけではなく、たくさん壁や障害もたくさんあって大変だったこともたくさんあったから。

③ 何気なく、ゲームみたい。
たくさん悩んでたくさん壁にぶつかったけれど、1つ1つ乗り越えて努力して、それが自分の経路となり、成長できていると思うから。

③ 体験には、部活をやっていて、うまくいかない時、怒られた時、今何をすべきか、どうしたらいいのかを考え、練習を重ね、努力して3年間頑張ってきた。

④ 感想
今までこれかき辛いと、苦しいことばかりあってでもムゲンではないと思えるから頑張ります。

(ニヤア)